

## 超党派「国民の質の高い睡眠のための取り組みを促進する議員連盟」

(略称：睡眠議連) 設立のお知らせ

令和4年11月22日(火)9～10時に、衆議院第2議員会館第4会議室において、超党派「国民の質の高い睡眠のための取り組みを促進する議員連盟」(略称：睡眠議連)設立総会が開催された。内村直尚理事長が、前久留米市長で元参議院議員の大久保勉氏と共に福岡県久留米市において、睡眠健診の実現を通して緊密に連携してきた経緯を背景として、国家レベルでの睡眠の重要性の理解や啓発を目指して、設立の運びとなった。

当日は、役員について、衆議院議員で前厚生労働大臣の田村憲久氏を会長、衆議院議員古川元久氏を幹事長、参議院議員の古川俊治氏を事務局長すること、規約として、国民が質の高い充実した睡眠を享受できるよう、アカデミア・産業界と近密に連携して、科学的な知見や実証を重視した、実効性のある睡眠に関する対策を打ち出していくことを目的とすること、が満場一致で承認された。

睡眠学会からのヒアリングでは、上田泰己氏(東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学教室教授)の取り組みと共に、内村直尚理事長が、日本睡眠学会の目指すビジョンとして、①睡眠科の標榜：医療者、国民、社会への睡眠の重要性の啓発、②厚生労働省に睡眠障害の担当部署を設置：ICD-11では睡眠障害は精神疾患や神経疾患から独立する、③医学教育において睡眠障害をコアカリキュラムに含める、④指定難病疾患の承認(ナルコレプシー、特発性過眠症、クライネ・レビン症候群)、⑤睡眠の認知行動療法の保険適応取得、⑥睡眠検査の保険適応取得：アクチグラフ(活動量計)、覚醒維持検査(MWT)、⑦睡眠健診の導入で乳幼児から成人・高齢者のからだところの疾患予防・早期診断を実現：働き方改革、フレイル予防、⑧科研費に「睡眠」に関連した細目を追加する、⑨オンライン診療(遠隔診療)のシステム確立、を示した。意見交換では、活発な議論がなされた。

今後は、2023年1月から始まる通常国会において睡眠議連から質問する事項について、日本睡眠学会が全面的に協力することとなった。第2回の睡眠議連は、2023年1月下旬～2月上旬の開催を予定している。

睡眠議連の活動は、その中立性や国民的見地が重要であるとともに、国会議員の関心やメディアの露出を高め、産業界とも連携して関係各所への周知を図ることが重要であると考えられる。学会員諸兄の、さらなる協力を申し上げる次第である。

当日の出席者と現時点での睡眠議連名簿は、以下の通りである。

【出席者】 敬称略

・国会議員(23名)：

[衆議院] 塩谷立、田村憲久、三ツ林裕巳、務台俊介、一谷勇一郎、中川康洋、古屋範子、

古川元久(本人出席)、池田佳隆、亀岡偉民、工藤彰三、源馬謙太郎、早稲田夕季、遠藤敬、藤巻健太、山本剛正、田中健(代理人出席)

[参議院] 古川俊治、片山大介、伊藤孝恵(本人出席)、自見はなこ、星北斗、宮口治子(代理人出席)

・厚生労働省(4名)

佐々木孝治(健康局健康課長)、高井慎一(大臣官房厚生科学課研究企画官)、吉川裕貴(子ども家庭局母子保健課課長補佐)、中村宇一(労働基準局安全衛生部労働衛生課産業保健支援室長)

・サポートメンバー

大久保勉(前久留米市長、元参議院議員)

・日本睡眠学会(6名)

内村直尚(理事長)、上田泰己(東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学教室教授)、千葉伸太郎(副理事長)、本多真(総務委員会委員長)、八木朝子(財務委員会委員長)、山寺亘(事務局長)

【超党派 睡眠議連 名簿】敬称略(所属政党、選挙区)

梶原大介(自民、参-201)、亀岡偉民(自民、衆 1-1006)、塩谷立(自民、衆 2-1211)、自見はなこ(自民、参-504)、田村憲久(自民、衆 1-902)、古川俊治(自民、参-718)、星北斗(自民、参-322)、三ツ林裕巳(自民、衆 2-522)、務台俊介(自民、衆 1-403)、逢坂誠二(立憲、衆 2-517)、源馬謙太郎(立憲、衆 1-624)、宮口治子(立憲、参-206)、一谷勇一郎(維新、衆 2-507)、市村浩一郎(維新、衆 2-1203)、片山大介(維新、参-721)、鈴木宗男(維新、参-1219)、藤巻健太(維新、衆 2-320)、中川康洋(公明、衆 2-919)、古屋範子(公明、衆 2-502)、伊藤孝恵(国民、参-1008)、田中健(国民、衆 1-712)、古川元久(国民、衆 2-1006) 計 22 名。

山寺亘 (事務局長)